

チャレンジコース 解説

チャレンジコースでは、地図から情報を拾い、ルートを考え、実際に行動し、おそらく途中で作戦を変更しながら、最大得点を狙って行動したと思います。

仕事の進め方はよく「PDCA」が重要だといわれます。

P：Plan（計画）>地図から情報を拾い作戦をたてること。

D：Do（行動）>実際に歩いていくこと。

C：Check（チェック）>うまく作戦通りいっているか自らチェックすること

A：Action（反映）>チェックの結果を計画変更など次の活動に反映すること。

地図をみて自分の思う方向に進むことは、まさにこのPDCAを繰り返しているということです。

地図を正しい向きに向けて、歩き出し、行き過ぎないように常にチェックしながら、もし迷ったら戻る、ということを繰り返します。また、チャレンジコース自体も、どんな順番に回るかという大きな作戦をたて、行動し、ダミーに引っかけられないようにチェックし、制限時刻を見ながら途中で作戦を変更することは、PDCAを実践していることとなります。

また、チャレンジコースではチームで取り組みました。仕事に例えれば、「制限時間」は「納期」です。「得点」がお客様にお出しする商品あるいはサービスです。時間もチームメンバーも限られた中でいかに最大限の効率を目指すか、ということです。単に体力勝負で頑張る、というのではプロとは言えません。プロである限り、作戦とその遂行能力を磨き、組織で最大効率を目指すべきです。

気づいたかもしれませんが、今回は作戦を立てる上で重要な情報は「地図」という形で与えられました。しかし、実際の仕事では、正確な情報をとること自体が困難な場合があります。この地図も実はこの研修に先立ち現地を調査した人がいるからあるわけです。いかに有用な情報を集めるかもプロとしての意識が問われます。

これはどんな小さな仕事にも当てはまります。例えば「コピーを頼まれる」という一見単純な仕事でも、何のためのコピーかという情報を自ら積極的に先輩から聞きだせば、「見る人が高齢者だったので拡大コピーをお渡ししたら喜ばれた」というようなプロ意識のある仕事になります。

これから、様々な部署の様々な仕事を経験していくことになると思いますが、この基本は小さな仕事から大きな仕事まで、どんな仕事でも変わりません。この研修の経験を活かし「素晴らしいプロ」を目指してください。